



福神汽船株式会社

代表者 / 代表取締役 瀬野 利之
業 種 / 船舶貸渡業
所在地 / 愛媛県今治市北日吉町 2 丁目 8 番 55 号
連絡先 / 0898-34-7711

SDGs 達成に向けた取組み

Kuroshio Smile Activity ~フィリピンの子どもたちに学用品を届けよう~



目的・背景

弊社はモノづくりをしている会社ではないため「不特定多数の人・社会」へのアプローチはなかなか難しいのですが、「船舶オーナー兼船舶管理」という**本業をベース**に昨今の社会・環境の課題に取組み、企業として成長していきたいという強い意志を持っています。

その中で令和 5 年度の目標は私たちの船を動かしている「**船乗り**」に注目し、彼らへの**感謝を込めて母国への支援**をするということでした。

弊社では **1,000 人以上のフィリピン人船員**を抱えており、彼らが世界各国へ船を運航して貨物を運んでおります。彼らの多くは貧しい家庭出身で、家族親戚一同の協力で船員学校へ通い、念願の船乗りとなり、安定した収入が確保できるようになってから親族へ恩恵の還元をしています。

会社としてもかねてから、彼らの家族や母国へ何か支援はできないかと考えておりました。そこで 1 年前にアンケート調査を行い「**私たちがフィリピンに何ができるか**」と聞いたところ、一番多かった意見が「**貧しい地域の子どもたちに学用品（文房具など）を届けてほしい**」ということでした。フィリピンは台風や地震などの災害も多く、被災地への支援などは想像できたのですが、この回答には驚きました。公立の学校へ無料でも学用品が買えない世帯が多いということを初めて知りました。カバンや靴すら持たない子どもたちも多いのです。

そういった経緯でフィリピンの子どもたちに必要な物資を届けようというプロジェクトを立上げ、まずは視察調査（3つの島の学校巡り及び孤児院訪問）を行い、現地の先生方と時間をかけて話を煮詰め、最終的に2つの島で3つの小学校に学用品を届けることにしました。国の発展には子どもたちの教育が重要であり、その教育には学用品は不可欠です。

社内でこの活動につける名前を募り「**クロシオスマイルアクティビティ**」としました。クロシオ（黒潮）はフィリピンの海域から日本海域へ流れる有名な海流であり船乗りは誰でも知っている名前、また日本とフィリピンを結ぶ絆のシンボルという思いを込めて「**Kuroshio Smile Activity**」にしました。フィリピンといっても多くの島に多くの地域がありますが、私たちの船で働く船員さんの出身エリアに絞り「**イロイロ（パナイ島）**」と「**バコロド（ネグロス島）**」の交通の便の悪い（貧しい）町を選びました。小学校選定にはそのエリア出身の船員さんに協力・提案をしていただきました。

具体的な取組内容

令和 5 年 3 月

視察に向向き、実際にフィリピンの学校事情や孤児院の様子を調査しました。

この視察で多くの貧しい家庭を目の当たりにし、彼らが実際どういった支援を必要としているかを聞き取りしてきました。学校まで 2 時間歩く子どもたちや、それでも靴を持たなかったり、ノートは 1 枚も書くスペースがないものを使っていたりという生徒もいました。

令和 5 年 4 月

社内で上記視察の報告会をし、社員に進捗報告しました。相談の結果、今回の目的はやはり私たちの船員さんの出身エリアを意識したため、孤児院や病院（学用品より経済的支援が必要）は見送り、小学校のみということにしました。今後の継続にあたり学校やエリアを増やすことを視野に、初回は 3 校に絞りました。どのエリアも地元の産業がなく、お父さんが出稼ぎに出るなど収入の厳しい町です。

令和 5 年 5 月頃～

各学校の先生と連絡を取り合い具体的な支給品と数、学年ごとの生徒数確認、現地での見積りを繰り返しました。小学校では日本と同様に学年ごとで使うノート（文字の稽古など）が異なるため、この準備はかなり時間がかかりました。支給のタイミングについて確認したところ「8 月末が学校始めの月なのでその頃が一番助かる」とのことですその時期に設定しました。

令和 5 年 7 月～ 8 月

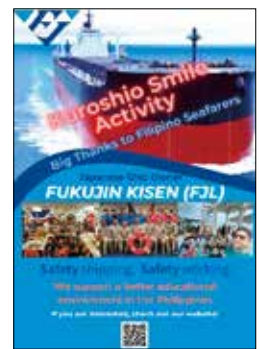
訪問日程を確定させ、訪問時のプログラム打合せを煮詰めました。

先生とのやり取りは Messenger です。山間部は電波が悪いことも多いようでしたが、比較的スムーズにやりとりできました。

この取組みは想像以上に現地で喜ばれ、先生方もかなり積極的に学校内で案内してくれたため、訪問前からものすごい盛り上がりがありました。

日本の会社から支援に来てくれるという情報が広まり、地域の方々の協力までいただくこととなりました。また、この時期から様々なステークホルダーへお声がけし、社内ですべてのノベルティ等のペンやノート、エコバッグなどを譲っていただく活動を始めました。

令和 4 年に始めた「船に古着を届けよう（Uni-T Activity）」と掛け合わせで呼びかけたので、大量の洋服と文房具が集まりました。弊社が SDGs 活動に力を入れている



フィリピンの学校で当活動の PR をしたチラシ



ステークホルダーへお配りしたチラシ

ことが広く認知されてきて、いろんな会社さん自ら物品を届けてくれることが増えました。
そのためフィリピンで手配済の文房具に加えて、日本で集まったものも合わせて届けることとしました。

令和5年8月29日～9月2日及び9月18日
Kuroshio Smile Activity 実施

小学校での実施プログラム

日本・愛媛の紹介（海も見たことがないような山奥の子どもたちなので不思議そうでした）
福神汽船の紹介（船のお話）
Kuroshio Smile Activity の説明（背景・目的・内容）
船乗りのお話（船員になる夢を持ってもらいたい）
一人一人支給品手渡し
先生方の挨拶やゲームなど

イロイロの山奥の小学校訪問は特に忘れられないものになりました。市内から大型車何台も連ねて3時間、足場の悪く傾斜のきつい道を上りましたが、台風の影響と足場の悪さで最後2Kmを車で進むことができなくなり、徒歩で川のような濁流の道を渡ったり沼のような泥道を歩いたりして学校にたどり着きました。

この道を通う小さな子どもたちがいることも驚きです。

山奥のため、先生たちは月曜から金曜まで泊まり込みで学校で過ごし、週末家に帰ります。エスコートいただいた船員配乗会社さんが子どもの数だけハンバーガーを差し入れてくれますが、ハンバーガーを初めて食べる子どももいました。

子どもたちへのアプローチとして「みんなの夢はなんですか？」と聞き、何人かに答えてもらってから「では夢を叶えるには何が必要な？勉強が大事だね。だから学用品を届けに来たよ」と説明しました。

付き添ってきてくれた船員さんには船乗り生活の話をしてもらい、船の仕事の魅力を伝えました。「Seafarer（船乗り）になる！！」と叫ぶかわいい子どもたちもいました。

皆目がキラキラしていたことが印象的です。

愛媛県の話や今治の海運業の話もして、皆興味津々でした。



令和5年10月

社内報告会を行い、社員に当活動について改めて報告しました。今回の成果だけでなく、反省点、今後の課題についても触れ、より多くの社員に関わってもらいたいとも伝えました。フィリピンの人々に喜んでもらえたことは嬉しいですが、「弊社で働く社員が誇れるような会社でありたい」ということもSDGs活動の醍醐味です。



成果

当初想像できなかったほど、この活動はフィリピン船員とその家族の心を惹きつけるものとなりました。

自分たちの働く日本の会社が母国の教育支援をしてくれた、ということをととても誇らしく思っていた良かったです。

この話は瞬間に弊社のフィリピン人船員に伝わり（彼らはSNSが生き甲斐なので）自分たちも協力したい、という声もいただいています。

一度の学用品支援で子どもたちの夢が叶うわけでもありません。フィリピンの教育環境を目覚ましく変えることもできません。

しかしながらフィリピン人船員を多く抱える日本の一企業として自分たちの身の丈に合った支援を続けること、これが当活動の軸であり、未来の船員がここから生まれ、愛媛県に興味を持つ子どもが増えたりすれば嬉しく思います。愛媛の海事業業が海外でも良いイメージを持っていただければと思います。



令和5年度は第三機関が認証する「イノベーションエンドースメント（IE）」も取得しました。財団法人日本海事協会が海事業界においてESG経営を進める「企業」や「製品」、また革新的な技術を取入れている「船舶」に与えられるものです。客観的評価をいただくことで改善や継続のモチベーションにつながっていけばと考えております。

担当者の思い

SDGsは国連の掲げる世界の目標ですが、企業版のSDGsは企業が社会と共に成長する目標だと捉えています。一時的なボランティア活動や事業と関連性のない社会貢献をしても持続性は保てないので、やはり本業をベースに社会活動を行うことが重要だと考えます。

また、社会のため、環境のため、もありますが、「より良い会社へ」の思いも大事です。SDGsを活用して従業員が生き生きと誇りを持って働ける会社でありたいと願っています。

〈ESG推進室長 原田 瑞紀〉

※ ESG推進室は本来は船舶の安全品質管理を担当する部署で、兼任となります。